

第78回 山形県連合小学校長会研究協議会

【領域】・分科会		研究課題	趣 旨
1	【学校経営】 経営・組織・運営	目指す学校づくりと組織・運営の活性化	著しく変化する社会背景に伴い、学校が抱える今日的課題は、複雑・多様化している。その中で、社会を切り拓き「生きる力」をもった子供を育成するために、それぞれの特色を生かした学校経営と、新しい時代の学校教育の実現を図っていかねばならない。 本分科会では、ICT等の効果的な活用によって、業務の効率化や活性化を進めるとともに、教職員の参画意識を高め、活力ある学校経営を推進するために、校長が果たすべき役割と指導性を明らかにする。
2	【教育課程】 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	少子高齢化に伴う人口減少や価値の多様化など、子どもたちがこれから生き抜く社会には課題があふれている。本地区では、「長井の心」【1長井を愛し、誇りに思う心、2感謝と思ひやり心、3真摯な精神で創造する心、4倫理を大事にする心】を柱に、社会が変動しても、子どもが夢を大切に、幸せや生きがいを感じながら生きることが出来る豊かな人間性を育成してきた。 本研究では、これまでの実践を分析し、「豊かな人間性」を育むカリキュラム・マネジメントを行うための校長の在り方について探っていく。
3	【指導・育成】 研究・研修	学校の教育力を高める研究・研修	近年、教職員の大量退職・大量採用の傾向が続き、経験豊富な教職員の減少と若手教職員の増加により、これまで脈々と受け継がれてきた教職員の知識・技能の伝承が困難な状況が起きている。また、英語、道徳の教科化、GIGAスクール構想によるICT活用、プログラミング教育、いじめ・不登校への対応、コミュニティ・スクールによる地域との協働など、教育界では新たな学びへと変革し、実践的な学校をめぐる教育課題も複雑化・多様化してきている。そのため、学校教育の使命や責務を果たしていくためには、教職員一人一人の指導力を向上させることは勿論のこと、質の高い教育をチームとして実践する学校づくりが必要である。特に、若手教員（20～30代）の増加により、若手教員にいかに関与力を身に付けさせるかが大きな課題の一つとなっている。 そこで、若手教員育成のための校内における研修体制の充実を図り、教職員の資質能力・学校の教育力を向上させていくために、校長としてのマネジメントの在り方について研究していくこととした。
4	【危機管理】 危機対応	様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	本県は、これまで比較的自然災害が少ないとされてきたが、近年、地震だけでなく猛暑による熱中症についても、学校として危機対応を迫られる場合が増えている。学校は、同じ危機を繰り返さないようにするために、これまでの危機対応で共有された課題に学ぶ姿勢や教職員一人一人が危機管理意識を自分事にも高めることが求められる。 このような視点に立ち、子どもの命を守り抜く学校にするための校長の役割について明らかにする。
5	【教育課題】 社会との連携・協働	家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進	少子化の進行や情報化、多様化の進展等、児童生徒を取り巻く社会情勢が急激なスピードで変化する中、児童生徒に関する課題はますます複雑化し、複数の学校段階間で連携して課題解決にあたる必要がある状況である。また、「令和の日本型学校教育」の構築と、子どもの学びの保障及び一人一人の資質・能力の育成等、義務教育の在り方を校長が中心となって再構築し、小中を核とした9年間というスパンで実現していくという意識改革が、今まで以上に重要になってくる。だからこそ校長は、学校教育の本質を見極め、伝統や前例にとらわれず、真の学校教育の具現化を図っていかねばならない。 このような視点から、小・中を核とした異校種等との連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進について、校長の果たすべき役割と指導性について考察していく。